

プロドライバー 事故防止教育読本

— 三部作 統合版 —

事故の芽を見つけ、安全側へ戻るために

臼井 稔清

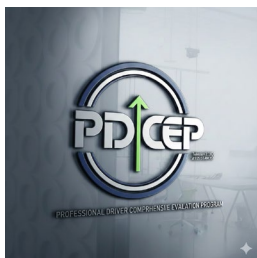


とちぎ安全教育センター株式会社
一般社団法人 GLB物流人材育成機構

プロドライバー事故防止教育読本

三部作 統合版

事故の芽を見つけ、安全側へ戻るために



著者

臼井 稔清

発行

とちぎ安全教育センター株式会社

協力

一般社団法人 GLB 物流人材育成機構

初版 Ver.1.0

2026 年 6 月 12 日

著者・発行者

著者

臼井 稔清

発行

とちぎ安全教育センター株式会社

協力

一般社団法人 GLB 物流人材育成機構

版数

初版 Ver.1.0

発行日

2026 年 6 月 12 日

統合版まえがき

本書は、プロドライバー事故防止教育読本 三部作を一冊にまとめた統合版です。

第1巻では、事故の入口を「入力異常」として整理しました。

第2巻では、安全行動が削られる心の動きを「我慢が切れる瞬間」として整理しました。第3巻では、事故を防ぐために必要な「進まない力・下がる力」を整理しました。

この三つは、別々の話ではありません。事故の前には、何かが見えていない、聞こえていない、拾えていない状態があります。その背景には、早く済ませたい、止まっていたくない、下がりがたくない、やり直したくないという心の動きがあります。そして、事故を防ぐためには、気づいた後に、進まない、下がる、確認し直す、やり直すという行動へ戻る必要があります。

本書の中心にある考え方は、次の一文です。

事故の芽を見つけ、安全側へ戻る。

事故防止教育は、完璧な人間を作るためのものではありません。人間には弱さがあります。焦ることがあります。見落とすことがあります。面倒だと感じる場合があります。正しいと思っていても、進めば事故になる場面があります。

だからこそ、事故になる前に気づく必要があります。気づいたら、安全側へ戻る必要があります。そして、その行動を会社と

ドライバーが共有し、記録し、教育し、再評価し、継続して支える必要があります。

本書が、プロドライバー本人を責めるためではなく、会社とドライバー双方を守るための事故防止教育資料として活用されることを願います。

本書の位置づけと注意事項

本書は、プロドライバーの事故防止教育、管理者教育、ヒヤリハット指導、事故後面談、再教育、再評価、継続支援のために作成した教育資料です。

本書では、事故やヒヤリハットを、単なる結果としてだけではなく、事故に向かう流れとして整理します。何が見えていなかったのか。何が聞こえていなかったのか。何を拾えていなかったのか。どの判断が安全側から外れたのか。どの心の動きが安全行動を削ったのか。どこで進まない判断が必要だったのか。どこで下がる判断が必要だったのか。体調、眠気、服薬、疲労の影響はなかったのか。次に何を変えるのか。

これらを整理し、次の安全行動へ戻すことを目的としています。

本書は、医師、薬剤師、弁護士、行政機関等による専門的判断に代わるものではありません。体調、疾病、服薬、法令、労務、安全管理上の判断が必要な場合は、関係法令、社内規程、運行管理上の基準、必要な専門家の確認に基づき、安全側で判断してください。

また、本書は、特定の年齢層、経験年数、性格、家庭環境などを決めつけるための資料ではありません。本書で扱うのは、誰にでも起こり得る人間の弱さと、事故の芽を安全側へ戻すための行動です。

重要

本書は判定・処分のための資料ではありません

本書は、運転者個人を裁くための資料ではありません。

本書に出てくるチェック項目、用語、振り返りシートは、ドライバーを不利益に扱う根拠として、単独で使用するものではありません。

入力異常。我慢が切れる瞬間。理解済み行動の再現性不足。進まない力。下がる力。15秒リセット。事故の芽。安全側へ戻る。

これらの言葉は、本人を責めるための言葉ではありません。事故の前に何が起きていたのかを整理し、次に必要な安全行動へ戻すための言葉です。

もちろん、事故や違反、重大な危険行為について、事実確認や必要な指導、法令・社内規程に基づく対応が不要になるわけではありません。しかし、処分だけで終わらせても、事故の芽が残れば、同じ危険は繰り返される可能性があります。

本書が目指すのは、処分の代わりに何もしないことではありません。事実を確認する。事故の流れを整理する。本人に必要な教育を行う。管理者が支援する。再評価する。継続して確認する。記録を残す。会社とドライバー双方を守る。

これが、本書の基本姿勢です。

三部作統合版の読み方

第1部 事故は入力異常から始まる

第1部では、事故の入口を「入力異常」として整理します。運転は、入力、判断、操作、結果という流れで成り立っています。事故を単なる不注意や確認不足で終わらせず、何が見えていなかったのか、何が聞こえていなかったのか、何を拾えていなかったのかを確認します。

第2部 我慢が切れる瞬間

第2部では、安全行動が削られる心の動きを整理します。早く済ませたい、止まっていたくない、確認が面倒だ、下がりたくない、やり直したくない。このような気持ちによって安全行動が削られる瞬間を見つけます。

第3部 事故を防ぐ 進まない力・下がる力

第3部では、気づいた後に安全側へ戻る行動を整理します。進まないことは弱さではありません。下がることは負けではありません。やり直すことは恥ではありません。

第4部 統合実務編

第4部では、事故後面談、ヒヤリハット確認、講習と再教育、日常点呼、体調・眠気・服薬確認、記録、再評価、継続支援へつなげます。

三部作全体構造

1 事故の入口を見る

最初に見るべきものは、事故の結果だけではありません。本書では、その入口を「入力異常」として整理します。

2 安全行動が削られる瞬間を見る

次に見るべきものは、なぜ入力が削られたのかという背景です。本書では、それを「我慢が切れる瞬間」として整理します。

3 安全側へ戻る行動を見る

気づくだけでは、事故は防げません。止まる、待つ、譲る、進まない、下がる、確認し直す、やり直す、相談する、申告する、休憩する。これが安全側へ戻る行動です。

4 教育・記録・支援へつなげる

事故やヒヤリハットを記録し、面談で整理し、講習や再教育へつなげ、再評価し、継続して確認することで、会社とドライバー双方を守る仕組みにします。

本書で使う主な言葉

事故の芽

まだ事故にはなっていないものの、そのまま進めば事故やヒヤリハットにつながる可能性がある小さな変化のことです。

入力

運転に必要な安全情報を拾うことです。見る、聞く、感じる、違和感を拾う、相手の動きを読むことを含みます。

入力異常

運転に必要な安全情報が正しく入っていない状態です。見えていない、聞こえていない、拾えていない状態を含みます。

入力不全

本来必要な安全情報が十分に入っていない状態です。見るべき場所を見ていない、死角確認が不足している、確認が短い状態などを指します。

入力破壊

本来取れるはずの安全情報を、焦り、面倒くささ、慣れ、眠気、疲労などによって自分で削ってしまう状態です。

我慢が切れる瞬間

安全行動を削ってしまう心の動きが出た瞬間です。早く済ませたい、止まっていたくない、確認が面倒、下がりたくない、やり直したくないなどが含まれます。

本書でいう我慢

無理を続けることはありません。安全のために、自分の衝動を止める力です。

理解済み行動の再現性不足

本人が安全行動や確認手順を理解しているにもかかわらず、実際の運転場面で安定して再現できない状態です。

進まない力

危険の芽を読み、無理に進めば事故に近づく場面で、あえて進まない判断をする力です。

下がる力

進みすぎた自分を、安全側へ戻す力です。単なるバック操作の技術ではなく、下がる、確認し直す、やり直す判断を含みます。

15 秒リセット

危ないと思った時、焦りや感情が出た時、入力が乱れている時に、入力と判断を安全側へ戻すための短い手順です。

安全側へ戻る

事故の芽に気づいた後、止まる、下がる、確認し直す、やり直す、相談する、申告するなどの行動へ戻ることです。

目次

統合版まえがき	3
本書の位置づけと注意事項	5
重要 本書は判定・処分のための資料ではありません	6
三部作統合版の読み方	8
三部作全体構造	9
本書で使う主な言葉	10
序章 事故の芽は、結果の前に生まれている	16
第1部 事故は入力異常から始まる	19
第1章 事故は、結果ではなく流れで起きている	20
第2章 入力とは何か	24
第3章 入力異常・入力不全・入力破壊	28
第4章 入力が崩れると、判断が崩れる	32
第5章 操作ミスの前に、入力ミスがある	37
第6章 プロドライバーが見落とししやすい入力異常	42
第7章 ヒヤリハットは、入力異常を教えてくれる	48
第8章 入力を戻すための15秒リセット	53
第9章 管理者は、事故を入力から聞き取る	58
第10章 事故防止は、入力を正常に戻すことから始まる	63
接続章1 入力は、なぜ削られるのか	68
第2部 我慢が切れる瞬間	69
第11章 事故の前に、我慢が切れる瞬間がある	70
第12章 事故はどこから始まるのか	73
第13章 「我慢が切れる瞬間」とは何か	78
第14章 落ち着きとリラックスは違う	84
第15章 人はなぜ止まれなくなるのか	90
第16章 適齢ドライバーと若年層に共通する課題	99
第17章 現代日本の教育・躾と抑制力	107

第 18 章	道路上に現れる「我慢の切れ目」	117
第 19 章	安全運転教育は何を教えるべきか	125
第 20 章	「我慢が切れる瞬間」を自覚させる指導	132
第 21 章	安全運転とは、自分を止める技術である	141
接続章 2	気づいた後に、安全側へ戻れるか	151
第 3 部	事故を防ぐ 進まない力・下がる力	152
第 22 章	正しくても、進めば事故になる場面がある	153
第 23 章	人はなぜ進んでしまうのか	155
第 24 章	進まない力とは何か	160
第 25 章	進まない判断は、経験から生まれる	164
第 26 章	下がる力とは何か	168
第 27 章	下がれない心の正体	173
第 28 章	相手が悪くても下がる理由	177
第 29 章	狭路・構内・納品先に現れる進まない力	182
第 30 章	下がる、確認する、やり直す	186
第 31 章	15 秒リセットと安全側へ戻る判断	191
第 32 章	下がる力から進まない力へ	195
第 4 部	統合実務編	202
第 33 章	事故後面談は、責める場ではなく整理する場	203
第 34 章	ヒヤリハットを教育に変える	205
第 35 章	管理者の聞き取りと支援	207
第 36 章	講習と再教育の組み立て方	209
第 37 章	日常点呼・声かけ・体調確認	211
第 38 章	記録・再評価・継続支援へつなぐ	213
第 39 章	会社とドライバーを守る事故防止教育	215
終章	事故の芽を見つけ、安全側へ戻る	217
付録	現場で使うためのチェックシート・記録シート	219
付録 A	事故の芽チェックリスト	220
付録 B	入力異常チェックシート	221

付録 C 我慢が切れる瞬間チェックシート	222
付録 D 進まない力・下がる力チェックシート	223
付録 E 15 秒リセット実施手順.....	224
付録 F ヒヤリハット振り返りシート	225
付録 G 事故後面談聞き取りシート.....	226
付録 H 日常点呼・体調・服薬確認メモ	227
付録 I 管理者向け声かけ例.....	228
付録 J 講習・再教育記録シート	229
付録 K 用語集.....	230
奥付.....	231

序章

事故の芽は、結果の前に生まれている

事故は、ぶつかった瞬間に突然始まるものではありません。その前には、見えていない、聞こえていない、拾えていない状態があり、安全行動が削られる瞬間があります。

はじめに 事故は、ぶつかった瞬間に始まるのではない

事故は、ぶつかった瞬間に突然起きるものではありません。追突した、接触した、巻き込んだ、バックでぶつけた、一時停止を見落とした。事故報告書には最後に起きた出来事が記録されます。しかし、事故を本当に防ごうとするなら、その「最後の出来事」だけを見ていては足りません。

事故には、必ずその前があります。その前に、何が見えていなかったのか。何を聞き逃していたのか。何を拾えていなかったのか。何を「大丈夫だろう」と思い込んだのか。どこで確認が薄くなったのか。どこで面倒くささや焦りが出たのか。事故を防ぐためには、この「前」を見なければなりません。

私は、プロドライバー教育や事故惹起者教育、再発防止支援に関わる中で、多くの事故やヒヤリハットを見てきました。そこで強く感じてきたことがあります。多くの事故は、単なる操作

ミスだけでは説明できません。ハンドルを切り間違えた、ブレーキが遅れた、確認しなかった、という言葉だけでは、事故の本質に届かないことが多いのです。

その前に、運転者の中で何かが起きています。見るべきものが見えていない。聞くべき音が入っていない。感じるべき違和感を拾えていない。周囲の変化を受け取れていない。本来なら取れるはずの安全情報を、自分で削ってしまっている。私はこれを、運転における入力異常として整理しています。

運転は、ただ車を動かす作業ではありません。道路、信号、標識、歩行者、自転車、二輪車、対向車、後続車、駐車車両、荷物の状態、天候、路面、音、振動、相手の動き。これらの情報を受け取り、その情報をもとに判断し、操作し、結果が生まれます。つまり、運転は「入力→判断→操作→結果」の流れで成り立っています。

入力が崩れれば、判断が崩れます。判断が崩れれば、操作が崩れます。操作が崩れれば、結果として事故や違反につながります。事故を「結果」だけで見ると、反省は浅くなります。「次から気をつけます」「確認します」「注意します」という言葉だけで終わってしまうことがあります。

本書は、事故を人の責任として責めるための本ではありません。また、ドライバーを評価し、排除するための本でもありません。ドライバー本人と管理者が同じ視点で事故の入口を見つめ直すための読本です。

プロドライバーに求められるのは、単に運転が上手いことではありません。自分の状態を知り、危ないと感じた時に立て直せること。焦った時に止まれること。疲れている時に無理をしないこと。面倒くささが出た時に確認を削らないこと。見えないものを見ようとする事。聞こえないものを聞こうとすること。拾えていない情報を拾い直そうとすること。これが、プロとしての事故防止力です。

事故は、ぶつかった瞬間に始まるわけではありません。その前の入力から始まっています。そして、事故防止もまた、入力を戻すところから始まります。

Web掲載用抜粋版について

本PDFは『プロドライバー事故防止教育読本 三部作 統合版』の一部を、著者および発行者の許諾に基づき公開するものです。

収録範囲：本文 1～18ページ

著者：臼井 稔清

発行：とちぎ安全教育センター株式会社

書籍の詳細・購入

Amazonで見る

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0H61X6GT5>

本PDFおよび収録内容の無断転載、複製、配布、改変を禁じます。